

メール 「一人ひとりを大切に、違いは宝物」元気で笑顔あふれる学校

にしおか

NO.15

豊中市立西丘小学校「学校だより」 平成31年(2019年)3月22日発行



「メールにしおか」のカラー版は、ホームページをご覧ください。http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/nisioka/

一年間 多大なご支援・ご協力を ありがとうございます。

このところの暖かさで、校庭の桜のつぼみも一段と膨らみを増してきました。20日には、お天気にも恵まれ、無事第52回卒業式を終えることができました。87名の子どもたちが一人ひとりの決意をしっかりと言葉で表し、胸を張って堂々と巣立っていきました。中学校でもそれぞれ自信を持って、頑張ってくれることと信じています。

そして、今日22日(金)、1年生から5年生の子どもたちがそれぞれの学年を修了しました。縁あって出会った仲間とともに、一年間の学習をつつがなく終えられたこと嬉しく思います。明日からは、4月からの新しい学年に期待も膨らむ春休みです。1年間の成長を振り返り、新学年へ進級する抱負、希望について話し合っただき、春休みが安全で、有意義なものとなりますよう、ご配慮をお願いいたします。

保護者の皆さまをはじめ、地域の方々に温かく見守られる中で、学校の一年間が無事終わりました。折に触れ、様々な場面で多大なご理解とご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。新年度が子どもたちにとって更なる成長の一年となりますよう、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

5年生の皆さん、卒業式への参列お疲れ様でした。ありがとう。


卒業式に関わって、準備から片付け、そして式への参列と5年生の皆さんは本当によく頑張ってくれました。卒業式では、ぴんと背筋を伸ばし、心を込めた呼びかけと歌声で卒業生を送りました。それと同時に、西丘小学校を引っ張っていく最高学年としてのバトンをしっかり引き継ぎました。これからの活躍に期待しています。

《卒業式 式次抜粋》

これから皆さんは、長い時間をかけ、様々な選択と決定を重ね、自分の人生を歩んでいきます。誰もが、幸せになりたい、幸せでありたいと願いながら。しかし、国連の世界幸福度調査報告書によれば、日本の主観的幸福度(自分で幸せだと感じる度合)はそれほど高くないことが分かっています。昨年の報告では、1位フィンランド、2位ノルウェー、次いでデンマーク、アイスランド、スイス。世界一の経済

あいさつで
あいてより
いつも
さきに やさしいきもちを
つたえよう



にしおかしょうがっこうの子 

にこにこ えがおが あふれる 子
しっかり まなび かんがえる 子
おもいやりが あり やさしい 子
からだと ころを きたえる 子

大国アメリカは18位、そして日本は156か国中、54位という結果でした。幸福度に影響を与えている要因は、所得、学歴、健康、人間関係など、さまざま考えられますが、1970年前後から「経済的に豊かであれば幸福である」というわけではないことが分かってきました。では「幸せ」とはいったい何でしょう。これは古くて新しいテーマです。幸福であるかどうかは人が決めるものではありません。自分自身が決めるのです。では、どうであれば幸福だと感じるのでしょうか。

「自分で人生の選択をすることが、日本人の幸福度を高めている」昨年8月、神戸大と同志社大の研究チームが、このような調査結果を発表し大きな話題を呼びました。学歴や収入よりも自分の進路を自分で決める「自己決定度」が幸福度に大きく影響しているというのです。研究チームは、自己決定で進路を選ぶと、自らの判断と努力で目的を達成する可能性が強まり、成果に責任と誇りを持ちやすくなることから、達成感や自尊心により幸福度が高まるのではないかと見ています。つまり、自分の意思で「自分の行動」を決めた時、人は目的を定め努力することができる。やる気の源が他者ではなく、自分の中にあり、それが結果的に幸福度を高めているというのです。皆さんも経験から知っているでしょう。人から言われてやるよりも、自分で決めたことをやる方が、やる気が出たり頑張れたりすることを。人から言われて取り組んだことは、上手いかなかった時、つい人のせいにしてしがちです。しかし、自分が決めた事なら、たとえ失敗しても自分で納得し、上手いかなかった原因を探り更に努力することができるのです。

もちろん、「自分で決定する」には、「自分で考える」必要があることは言うまでもありません。「どうしよう。」という焦りや不安、叫び出したいような感情を抱えることのできる心。多少のストレスをはねのけるしなやかな気持ちのバネ。苦境を前に「どうしたらいいんだろう」と考える力。考えることに必要な言葉の力。何とか打開策を見出そうとする発想力。それを生み出す主体性。そして、何よりも、そういう体験をくぐり抜けた先にこそある「自分って、案外大丈夫そうだ」と思える自己肯定感。それらの全てが、皆さんがやがて大人になり社会に出た時の財産として、生きる礎となるのです。

昨年飛躍的な成長を遂げた女子テニスの大坂なおみ選手が、今年1月、全豪オープンで優勝しました。決勝戦第2セット、あと一本取れば優勝というところまで来て、マッチポイントを3回失敗、あっという間に逆転され、そのセットを落とします。失点の度に叫び声をあげ、ボールを叩きつけ、しまいには涙を流していました。ところが、数分間の休憩を挟み、第三セットは見違えるような冷静さで見事優勝したのです。試合中泣いてしまうほど追い詰められた所からどうやって自分を取り戻したのか。その精神力、心の強さにただ感動しました。その大坂選手が大会後アメリカのテレビ番組で「あなたを目標とする沢山の子どもたちに何かメッセージを」と言われ、こう答えました。「人それぞれに道というものがあり、その道を突き進むだけです。諦めずにね。そして、自分と他の人と比べない、という事です。」皆さんも他の誰とも違わず自分だけの道を、自分のペースで一步一步、歩んでほしい。心からそう願っています。

